

# ものづくり寄席



平成17年 1月～3月

「ものづくり寄席」とは、製造業に関する第一線の研究成果や、製品開発・生産といった現場の最先端の話題が演目として並ぶ、一風変わった寄席

そんな、ものづくり経営に関する研究やものづくり現場の話を、気軽に聞ける寄席が丸の内にあるのを、ご存知ですか？

嘶家は、東京大学ものづくり経営研究センターの教員を中心に、日本のものづくりを支える企業人などが、代わる代わる出演

「なんや、大学の先生たちの小難しい話か。かなわんな～」

そんな心配はご無用。あくまでも「寄席」。お客さんはみんなフリードリンク片手に、ときどき笑いながら聞いています

ものづくり寄席は、月曜日・木曜日の夕方に開演。仕事帰りに、お気に入りのカフェにちょっと寄る気持ちで、それとも、出張ついでに一席、というのも、よろしいのでは

## ●●● 演目表 ●●●

1月 20日(木)	真鍋 誠司	企業間の信頼関係—トヨタの部品取引ネットワーク—
24日(月)	藤本 隆宏	「ものづくりシニア再登板せよ」とは何であるか
27日(木)	呉 在恒	韓国自動車企業の競争戦略と組織能力
31日(月)	田中 正	ものづくりのカイゼン、販売営業活動への活用(3)

2月 7日(月)	伊藤 洋	HONDAのもの作り、車作りの変遷
14日(月)	大鹿 隆	日本自動車産業の裏の競争力と収益力
17日(木)	竹田 陽子	硬い技術は組織を柔らかくする？情報システム導入のジレンマ
21日(月)	小澤 茂幸	企業の変革を担う技術開発とは・・・
28日(月)	小川 絃一	次世代DVDの製品アーキテクチャと勝者の条件

3月 3日(木)	高井 絃一郎	アサヒの品質保証の基本概念「太鼓判システム」再考
7日(月)	新宅 純二郎	製品アーキテクチャ論に基づく技術移転の分析
14日(月)	梶山 泰生	海外のR&Dをどう活用するか

※2月3日(木)、2月10日(木)、2月24日(木)、3月10日(木)は臨時休業です

## 東京大学21世紀COEプログラム ものづくり経営研究センター

- 日本発の「ものづくりシステム」の国際的な研究拠点、とりわけ、戦後日本の製造企業が形成した「統合型ものづくり(生産・開発・購買)システム」の理論的・実証的研究を専門に行うために設立された研究拠点です
- 21世紀において、日本から世界へ向け、主体的な知的発信をおこなう世界最高水準の研究拠点となることを、目指しています

主催:東京大学21世紀COE  
ものづくり経営研究センター  
(東京大学大学院経済学研究科)  
共催:特定非営利活動法人  
グローバルビジネスリサーチセンター  
後援:三菱地所株式会社

ものづくり寄席  
東京都文京区本郷3-34-3 本郷第一ビル8階  
ものづくり経営研究センター  
TEL:03-5842-5501 FAX:03-5842-5536  
URL:<http://www.ut-mmrc.jp>  
E-mail:[yose@ut-mmrc.jp](mailto:yose@ut-mmrc.jp)





ものづくり寄席は、当日売りしかございません  
お時間が出来たとき、ぶらりと気軽に立ち寄ってみてください  
フリードリンク付きで、ものづくり経営の小咄が楽しめます  
人気演目では、立ち見もご愛敬

木戸銭(入場料):1,000円(税込)

一月

20日(木) 真鍋 誠司 横浜国立大学経営学部助教授	企業間の信頼関係 —トヨタの部品取引ネットワーク—	日常生活はもちろん、ビジネスにおいても信頼は重要である。「信頼とは何か？」から出発し、企業間の信頼関係についてトヨタの部品取引ネットワークを事例に考える。
24日(月) 藤本 隆宏 東京大学大学院経済学研究科教授	「ものづくりシニア再登板せよ」とは何であるか	2007年問題といわれるものづくり人材の大量退職は、考えようによっては、日本のものづくり能力のかさ上げをする大きなチャンスになるかも知れない。いまからちゃんと準備すればね。という話をしましょう。
27日(木) 呉 在恒 ものづくり経営研究センター特任助教授	韓国自動車企業の競争戦略と組織能力	現代・起亚自動車がこの数年高業績を上げ続けており、グローバルトップ5入りを目指し、グローバル展開を本格化している。最近の高業績の要因と競争戦略の特徴を組織能力との関連で解説する。
31日(月) 田中 正 ものづくり経営研究センター特任研究員 元 川崎三菱自動車販売(株)社長	ものづくりのカイゼン、 販売営業活動への活用(3)	前回まで、トヨタ販売会社の改善についてお話ししてきた。今回は、市場環境に適合するため、深層の競争力の根拠である「組織の進化能力」をいかに高めるか、事例を中心に話を進めていきたい。

二月

7日(月) 伊藤 洋 ものづくり経営研究センター特任研究員 元 ホンダエンジニアリング(株)	HONDAのもの作り、車作りの変遷	創業当時から、世界を視野に入れたVisionを掲げ、いくたの危機を乗り越え、いつのまにか大きくなっていったホンダのもの作り、車作りを考えてみる。ホンダシステムといわれるもの作りとは何なんだろうか、またあるのだろうか。
14日(月) 大鹿 隆 ものづくり経営研究センター特任教授	日本自動車産業の裏の競争力と収益力	日本自動車メーカーの裏の競争力を支える台数生産性は依然顕在である。ここ数年の日本自動車メーカーの業績好調の背景には付加価値生産性の上昇と商品プロダクトミックスの効果が現れている。
17日(木) 竹田 陽子 横浜国立大学大学院環境情報研究院助教授	硬い技術は組織を柔らかくする？ 情報システム導入のジレンマ	日本企業の情報システムは伝統的に「つくり込みのシステム」であるが、近年、既存のサブシステムを使って「組み合わせのシステム」を構築する発想への転換を迫られており、これが企業組織のあり方に大きな変化をもたらす可能性がある。
21日(月) 小澤 茂幸 ものづくり経営研究センター特任研究員 NPO法人YUVEO理事	企業の変革を担う技術開発とは...	企業が成長し続けるためには継続的なイノベーションが重要である。企業の成長を担う技術開発のあり方について感じていることを述べます。
28日(月) 小川 紘一 ものづくり経営研究センター特任研究員 元 富士通(株)光ディスク事業部長	次世代DVDの製品アーキテクチャと勝者の条件	Blu-rayとHD DVDを製品アーキテクチャの視点から分析し、各陣営の勝ちパターンを提案したい。また1970年代のVTR覇権争いと比較しながら日本企業の利益構造を分析する。

※2月3日(木)、2月10日(木)、2月24日(木)は臨時休業です

三月

3日(木) 高井 紘一郎 ものづくり経営研究センター特任研究員 元 アサヒビール(株)専務取締役	アサヒの品質保証の基本概念 「太鼓判システム」再考	アサヒビールは、自工程の品質を工程責任者が保証し、最後に工場長が確認して太鼓判を捺すという「太鼓判システム」を考案した。そうしたビールの品質安定化の考え方と、意味合いについて検討する。
7日(月) 新宅 純二郎 東京大学大学院経済学研究科助教授	製品アーキテクチャ論に基づく 技術移転の分析 —光ディスク産業における国際分業—	光ディスク産業は日本企業が技術開発をリードしてきたが、量産段階では急速に韓国、台湾、中国企業に中心が移っていった。製品アーキテクチャ論による分析結果を報告し、そのうえでアジア企業との新しい提携モデルについて提言する。
14日(月) 梶山 泰生 京都大学大学院経済学研究科助教授	海外のR&Dをどう活用するか	R&Dの海外展開が進んできているが、その拠点は十分活用されているだろうか。比較的新しい課題である海外R&Dのマネジメントについて、事例を用いて考えてみる。

※3月10日(木)は臨時休業です



2005年 1月～3月開催要項  
開催時間 19:00～20:30(受付開始 18:30)  
※開始時間が変更となりました  
会場 三菱ビル コンファレンススクエア  
エムプラス 1階・10階(当日掲示)  
千代田区丸の内2-5-2  
(JR東京駅丸の内南口から徒歩約3分)  
満員の際には 入場をお断りすることがございます  
演目・演者は 変更する場合がございます  
最新情報は ホームページにてご確認ください

